

カトリック六甲教会 教会報

「平和を実現する人は幸い」(マタイ5・9)

2015年、日本の司教団は戦後70年司教団メッセージ「平和を実現する人は幸い～今こそ武力によらない平和を」を発表しました。このメッセージで司教団は「教会は人間のいのちと尊厳に関する問題に沈黙できない」と述べています。

教会は、特定の政治的立場に立つわけではありません。しかし、近年の日本の政治の流れが、「いのちと尊厳に関する問題」となる危険をはらんでいるということを指摘しないわけにはいきません。

メッセージでは戦後70年間掲げられてきた憲法による平和主義、不戦の理念が脅かされていることへの懸念が表明されました。その後、憲法を書き換えようとする動きが、より具体的になってきています。日本国憲法が保障する人権、平和な暮らし、そして立憲主義自体が、危うくなってきています。

今、日本は進むべき方向が決定的に変わってしまう分かれ道にあります。ここで私たちは、無関心でいたり、何もしないでいたりすることはできません。一人ひとりが信仰と良心に基づき、選挙投票のような形で、政治に参加することが求められています。

「すべてのキリスト者は、政治共同体における自分に固有の特別な召命を感じとるべきである」

「すべての市民は、共通善を促進するため自由投票を行う権利と義務があることを記憶すべきである。人々に対する奉仕として、国家の福祉のために献身し、またこの任務の重責を引き受ける人々の動きを、教会は称賛に値するものとして高く評価する」

(『現代世界憲章』75)

いのちと平和な暮らしを守るために、わたしたちは何をなすべきでしょう？

答えは簡単には見つかりませんが、わたしたち一人ひとりが、自分の頭で考え、意見を交わし、選挙などを通じて政治参加をすることが、大切な初めの一歩となるのではないのでしょうか。

「戦争はもうごめん、二度としない！ 平和、それこそが、諸国民と人類すべての目標を導く！」
(教皇パウロ六世 1965年10月4日の国連演説)

「次のことを忘れないでください。」

『責任ある市民であるということは徳なのです。そして政治生活への参与は道徳的な義務です』
(教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』220)

(「すべての人のいのちと平和なくらしのために」発行 カトリック中央協議会 より)



ナルドの花たより

家庭で体験する真の喜びとは、偶然で短期間のものではなく、確固とした永続的なものです

True joy which is experienced in the family is not something random and fortuitous, but normal and ongoing. (7月3日)

神が愛すように愛し、ゆるすようにゆるすこと。これこそ、中断も例外も知ることのない人生のプログラムです

Loving and forgiving as God loves and forgives. This is a programme of life that can know no interruptions or exceptions. (7月4日)

夏は多くの人に休息する機会を与えます。人間関係を修復するにはよい時期です

The summertime offers many people an occasion for rest. It's also a favorable time to take care of our human relationships. (7月4日)

多くの場合、夏の間、より孤独になり、困難な状況に陥りがちな高齢者や病者のことを心に留めましょう

Let us remember the elderly and the sick who in the summer months are often more alone and can be in difficulty. (7月17日)

若者の皆さん、多様な人種、文化、民族からなるモザイクがイエスの名の下に結集する姿を世界に示しましょう！

Dear young people, let us offer the world a mosaic of many races, cultures and peoples united in the name of Jesus! (7月26日)

(カトリック中央協議会ホームページより)



2016年度第2回小教区評議会議事録

★ 日時 : 2016年7月10日(日) 12:00~13:50

★ 場所 : 信徒会館 第4会議室

★ 出席者 : アルフレド主任司祭、議長団、評議員、その他関係者

1. 主任司祭挨拶

2. 協議事項

(1) フリーディスカッション「六甲教会の10年後を見据えて、どんな対応が必要か。」

3. 報告事項

(1) 財務委員会報告

(2) 「7月度神戸地区宣教司牧評議会」報告

「はじめて知ることがたくさんあって、ちょっとびっくりした。でも、ちょっとつらかった。」
(さいとう てい太)

「つかれたけど楽しかった。つらかった。しょうじききびしかった。よく勉強できた。」
(風太)

「じしゃのやり方がわかって、よかった。むずかしかった。」
(まつだ りゅうじ)

「おぼえるのにくろうした。むずかしかった。でもなれたからよかったです。次から注意したいです。かんぺきにおぼえた。」
(亜弥音)

「私は、じしゃを何回もしたことはあるけど、ぼーとしている事が多くて次の事を考えて行動をあまりしていなかったけど、今回、このれんせい会をとおして しんぷさまやリーダーにアドバイスをもらったのもっとじしゃのことにくわしくなったので良かったです。」
(愛湊)

「一つ一つ名前を覚えるのがむずかしいです。全部カンペキにしたいです。」
(野田まりあ)

「私は今日の侍者会をとおして、忘れてた事を思い出せました。これからは、他の侍者の人達と、心を合わせて、今日、注意されたことを、気を付けたいです。」
(若菜)

「今日、侍者会をして、初めてろうそくを持ったり、今まで分からなかったことをきちんと復習することができました。これからも、侍者をするときに、今日学んだことを思い出して、がんばりたいです。また、豆知識も知れたのでよかったです。」
(林 優莉花)

「侍者錬成会を今日して、今までずっと繰り返ししてきた事を、一から見直す事ができて、良かったと思います。また、今までやっていたことからの変こうがいくつかあったのでこの人数で何回もして、覚えることができたので、これからの当番で、分からなくなって、困ることがなくなったので助かりました。これからもがんばって侍者をしていきたいです。」
(武田七海)

「これまで、あまりわかっていなかったところが、今回の侍者会でしっかりとわかり、神父様にわたしていく物の順番もわかったのでよかったです。これから時々ミサの当番であたるかもしれないけど、今回、経験したことを覚えて、いかしていきたいと思います。」
(千原優奈)

「流れを確認することができてよかった。所々仕草が今までと違うところがあって注意しなければいけないと思った。」
(森成)

「前と少し変わっていたところもあったので、これから侍者をする時は、変わったところに気をつけてやりたいです。とくにろうそくを持っている時、おじぎをしない、ということ気を付けたいです。」
(裕心)

「繰り返し練習したことで、動きを覚えることが出来ました。第一朗読の先導をする方の動きは、久しぶりにしたため、間違ってしまう場面もありましたが、覚え直すことができ、良かったです。今は、まだ動きを覚えています、だんだん忘れてしまいそうなので、しっかりと覚えておきたいです。」
(絵莉花)

「今日、錬成会をして、まだ自分が分かってない所や、覚えていない所が分かりました。奉納のときの順番とか覚えられて良かったと思います。手をちゃんと合わせたり、立ち座りなどきちんと気をつけたいと思います。ろうそくの時もおじぎをしないように気をつけます。これからもがんばりたいと思います。」
(華)

「今回の錬成会で、順番を覚えることができた。いつも順番を忘れてしまうので、このまま記憶を保ちたいと思う。また、ろうそくを持っているときに、おじぎをしないようにするのを忘れないようにしたいです。これからもがんばります。」
(恵美)

会場 カトリック神戸中央教会主聖堂

- 行事 1) 大阪教区青年 Youth9 スライド劇「もしも日本国憲法が変わったら？」
2) 「今こそ伝えたい戦争体験」に続く現在の青年・子育て世代と会場のトーク
3) 平和祈願ミサ (15:00~16:00)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

納涼の夕べ “手をつなぎ 心をつないで 夏祭り!”

日時 8月20日(土) 17:00 ミサ後～20:00

場所 カトリック六甲教会



飲んで : ビール・ジュース 等

食べて : 焼きそば・焼き鳥・おにぎり・綿菓子 等

遊んで : 輪投げ・スーパーボール釣り・花火・イベント (出し物はお楽しみ) 等

ご家族、ご友人、ご近所の方もお誘いの上 お越しください

地区会 納涼の夕べ企画チーム



みんなの広場

8月15日

ヨハネ 三好

「もう空襲はないんですね」。「童貞聖マリア無原罪の御孕りの大祝日」に始まった暗黒の日々が終わった「童貞聖マリア被昇天の大祝日」。外人が独りで街を歩けば穏やかでは済まないこともあった時代、カーキ色の国民服にブルビアーレを包んだ風呂敷を手に、生徒の家を訪ね歩いておられたカール・ライフ神父様の一言でした。

聖母の無原罪が信ずべき事実と宣言されたのは1854年12月8日、ピオ9世によってでした。原罪が無ければ死はあり得ないはず。その必然といえる「聖母の被昇天」が誤りない事実と宣言されたのは、ようやく1950年11月1日になってピオ12世によってでした。共に「ピウス」を名乗る波乱の一生を過ごしたパパ様でした。

近頃、この日は「守るべき祝日」ではなく、殆ど平日に当たり、また世俗の出来事が大きく取り上げられるためか、信徒にはあまり意識されなくなったようです。しかし、この日は私たちには特別な、忘れてはならない日なのです。

ロヨラの聖イグナチオが他の6人の同志と共に1534年の8月15日、その中でただ一人司祭であったファールが捧げるミサの中で初めて誓願を立てたイエズス会苦難の始まりの日です。また、その中の一人、ザビエルの聖フランシスコが日本の土を踏んだのが1549年の8月15日でした。

当時日本の首都であった京都に、「都の南蛮寺」つまり聖堂の献堂式と初めてのミサが行われたのも8月15日だったとか。

「国家総動員」「隣組」。嘗てのことが今わたしたちには再び現実になっています。その中にあっ

て信仰を守り信仰をもって生きるのが如何に難しいことか、現代の日々からは想像の及ばない現実でした。教会報を読んでいて現代の信者があまりにも「のんき」であることを危惧せざるを得ません。

8月15日の歴史を顧みる時、今最大の課題は「召命」ではないかと思います。一億人の信徒が結集してもただ一人の司祭に代わることはできません。ただ一片のオスチアも聖別できません。何時の頃からか共同祈願から「召命を求める祈り」がなくなりました。御父は今もわたしたちの中の誰かを呼んでおられます。しかし、その声は聞こえない、聞こえても振り向かない、振り向いても従わない。

この日は、「マリア」の完成の日。わたしたち一人一人にとっても「完成」の日。「お言葉どおり、この身になりますように」（ルカ：1・38）、マリア様のお答えでした。

<p>教会報 9月号の発行は9月4日（日）です。 原稿は8月21日（日）までに教会受付へご提出ください。 FAX 及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6 F A X 0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部</p>
--	--

